

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更							
フリガナ		ガクシュウイン ガクシュウイン							
設置者		学校法人 学習院							
フリガナ		ガクシュウイン ガクシュウイン							
大学の名称		学習院大学大学院 (Gakushuin University Graduate School)							
大学本部の位置		東京都豊島区目白一丁目5番1号							
大学の目的		<p>本大学は、総記の精神（本院はすべて社会的地位や身分にかかわらず広く男女学生を教育することを本旨として、教育基本法及び学校教育法に基づいて次の諸学校の学則の定めるところによつてこれらの男女に幼児の保育から大学教育に至る一貫した教養を与え、高潔な人格、確乎とした識見並びに近代人にふさわしい健全で豊かな思想感情を培い、これによつて人類と祖国とに奉仕する人材を育成することを目的とする。）に基づき精深な学術の理論と応用とを研究教授し、有用な人材を育成し、もつて文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。</p> <p>本大学院は学部教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的		<p>①博士前期課程で習得した心理臨床能力を臨床現場で発揮しながら、その能力をさらに伸ばし、さまざまな領域の事例や困難度の高い事例にも対応できるような人材を養成する。</p> <p>②心理臨床実践を多角的な視点から検討し、臨床心理学に資する研究を行える人材を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文科学研究科 [Graduate School of Humanities] 臨床心理学専攻（博士後期課程） [Graduate Course in Clinical Psychology]	3年	3人	—	9人	博士（臨床心理学）	平成27年4月第1年次	東京都豊島区目白1丁目5番1号	
計		3	3	—	9				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		学習院大学大学院 法務研究科 法務専攻専門職学位課程〔定員減〕（△30）（平成27年4月） 学習院大学大学院 人文科学研究科 教育学専攻博士前期課程（20）（平成26年5月認可申請） 教育学専攻博士後期課程（5）（平成26年5月認可申請）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程		4科目	5科目	0科目	9科目	20単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程		5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	5人 (5)	0人 (0)	5人 (5)
	計		5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
既	大学院 法務研究科 法務専攻 専門職学位課程		13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	4 (4)
	大学院 政治学研究科 政治学専攻 博士前期課程		18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
	大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程		17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
	大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士前期課程		16 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	6 (6)
	大学院 人文科学研究科 哲学専攻 博士前期課程		3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)

組	大学院 人文科学研究科 美術史学専攻 博士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
	大学院 人文科学研究科 史学専攻 博士前期課程	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)	
	大学院 人文科学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	
	大学院 人文科学研究科 英語英米文学専攻 博士前期課程	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
	大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻 博士前期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	
	大学院 人文科学研究科 フランス文学専攻 博士前期課程	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	
	大学院 人文科学研究科 心理学専攻 博士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
	大学院 人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士前期課程	4 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	0 (0)	7 (7)	
	大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学専攻 博士前期課程	4 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	0 (0)	13 (13)	
	大学院 人文科学研究科 身体表象文化学専攻 博士前期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
	大学院 自然科学研究科 物理学専攻 博士前期課程	5 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	6 (6)	
	大学院 自然科学研究科 化学専攻 博士前期課程	7 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)	
	大学院 自然科学研究科 数学専攻 博士前期課程	8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)	
	大学院 自然科学研究科 生命科学専攻 博士前期課程	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	
	大学院 法学研究科 法律学専攻 博士後期課程	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	大学院 政治学研究科 政治学専攻 博士後期課程	18 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	
	大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程	17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)	
	大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士後期課程	16 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (18)	0 (0)	6 (6)	
	設	大学院 人文科学研究科 哲学専攻 博士後期課程	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
		大学院 人文科学研究科 美術史学専攻 博士後期課程	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
大学院 人文科学研究科 史学専攻 博士後期課程		7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	7 (7)	
大学院 人文科学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	7 (7)	
大学院 人文科学研究科 英語英米文学専攻 博士後期課程		7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻 博士前期課程		3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	
大学院 人文科学研究科 フランス文学専攻 博士後期課程		0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	
大学院 人文科学研究科 心理学専攻 博士後期課程		5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学専攻 博士後期課程		4 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	0 (0)	13 (13)	
大学院 人文科学研究科 身体表象文化学専攻 博士後期課程		5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
大学院 自然科学研究科 物理学専攻 博士後期課程		5 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	6 (6)	
大学院 自然科学研究科 化学専攻 博士後期課程		7 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)	
大学院 自然科学研究科 数学専攻 博士後期課程		8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	3 (3)	
大学院 自然科学研究科 生命科学専攻 博士後期課程		8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	
計		134 (141)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	148 (155)	0 (0)	94 (94)	
要		分							
		合計	134 (141)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	148 (155)	0 (0)	94 (94)

法学研究科法律学専攻博士後期課程以外の博士後期課程の教員は博士前期課程と同じため縦計は実数を計上

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		69 (69)	74 (74)	143 (143)					
	技 術 職 員		9 (9)	8 (8)	17 (17)					
	図 書 館 専 門 職 員		20 (20)	1 (1)	21 (21)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		98 (98)	83 (83)	181 (181)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	35,012㎡	3,322㎡	10,553㎡	48,887㎡		学習院高等科と共用 (収容定員：600人) (面積基準：8,400㎡) 学習院中等科と共用 (収容定員：600人) (面積基準：7,200㎡) 学習院幼稚園と共用 (収容定員：104人) (面積基準：480㎡)			
	運 動 場 用 地	21,716㎡	17,588㎡	10,263㎡	49,567㎡					
	小 計	56,728㎡	20,910㎡	20,816㎡	98,454㎡					
	そ の 他	98,034㎡	0㎡	8,412㎡	106,446㎡					
合 計	154,762㎡	20,910㎡	29,228㎡	204,900㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		94,066㎡ (94,066㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	94,066㎡ (94,066㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	92室	58室	104室	11室 (補助職員 人)	6室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程		5 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用 図書 468,881冊 機械・器具8,372点 標本 29点		
	人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程	33,845 [20,041] (30,844 [19,074])	4,464 [902] (4,200 [845])	690 [690] (690 [690])	59 (44)	6 (6)	0 (0)			
	計	33,845 [20,041] (30,844 [19,074])	4,464 [902] (4,200 [845])	690 [690] (690 [690])	59 (44)	6 (6)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		12,106㎡		1,646	1,888,675					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,061㎡		卓球場、柔剣道場、トレーニングセンター		1,909㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	経費は、申請研究科全体。図書費には、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円				
		共同研究費等		2,580千円	2,640千円	2,700千円				
		図書購入費	7,710千円	7,880千円	8,050千円	8,220千円				
	設備購入費	8,570千円	8,760千円	8,950千円	9,140千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	850千円	700千円	700千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

大学の名称	大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍			
既設大学の状況	法務研究科法務専攻								
	専門職学位課程	3	50	-	150	法務博士（専門職）	0.71	H16年度	
	法学研究科法律学専攻								
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（法学）	0.16	S61年度	
	政治学研究科政治学専攻								
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（政治学）	0.58	S54年度	
	博士後期課程	3	5	-	15	博士（政治学）	0.15	S56年度	
	経済学研究科経済学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（経済学）	0.37	S54年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（経済学）	0.08	H2年度	
	経営学研究科経営学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（経営学）	0.52	S53年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（経営学）	0.91	S61年度	
	人文科学研究科哲学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（哲学）	0.57	S28年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（哲学）	0.16	S40年度	
	美術史学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（美術史学）	0.90	H20年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（美術史学）	1.49	H20年度	
	史学専攻								
	博士前期課程	2	15	-	30	修士（史学）	0.84	S40年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（史学）	0.99	S40年度	
	日本語日本文学専攻								
	博士前期課程	2	20	-	40	修士（日本語日本文学）	0.77	S28年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（日本語日本文学）	0.91	S40年度	
	英語英米文学専攻								
	博士前期課程	2	10	-	20	修士（英語英米文学）	0.40	S32年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士（英語英米文学）	0.57	S40年度	
	ドイツ語ドイツ文学専攻								
	博士前期課程	2	5	-	10	修士（ドイツ語ドイツ文学）	0.40	S32年度	
	博士後期課程	3	2	-	6	博士（ドイツ語ドイツ文学）	0.37	S40年度	
	フランス文学専攻								
	博士前期課程	2	5	-	10	修士（フランス文学）	0.35	S32年度	
博士後期課程	3	2	-	6	博士（フランス文学）	0.00	S40年度		
心理学専攻									
博士前期課程	2	6	-	12	修士（心理学）	0.28	S55年度		
博士後期課程	3	2	-	6	博士（心理学）	2.50	S57年度		
臨床心理学専攻									
博士前期課程	2	12	-	24	修士（臨床心理学）	0.97	H21年度		
アーカイブズ学専攻									
博士前期課程	2	15	-	30	修士（アーカイブズ学）	0.24	H20年度		
博士後期課程	3	3	-	9	博士（アーカイブズ学）	0.99	H20年度		

東京都豊島区目白一丁目5番1号

身体表象文化学専攻	博士前期課程	2	10	-	20	修士 (表象文化学)	0.55	H20年度		
	博士後期課程	3	3	-	9	博士 (表象文化学)	0.49	H20年度		
	自然科学研究科物理学専攻	博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	0.86	S28年度	
		博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.16	S36年度	
	化学専攻	博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	1.23	S28年度	
		博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.41	S36年度	
	数学専攻	博士前期課程	2	6	-	12	修士 (理学)	0.70	S42年度	
		博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.24	S44年度	
	生命科学専攻	博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	0.34	H20年度	
		博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.49	H20年度	
	大 学 の 名 称 学 習 院 大 学									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	法学部	法学科	4	250	-	1,000	学士 (法学)	1.03	S39年度	東京都豊島区目白一丁目5番1号
政治学科		4	230	-	920	学士 (政治学)	1.05	S24年度		
経済学部	経済学科	4	250	-	1,000	学士 (経済学)	1.07	S27年度		
	経営学科	4	250	-	1,000	学士 (経営学)	1.10	S49年度		
文学部	哲学科	4	95	-	380	学士 (哲学)	1.16	S24年度		
	史学科	4	85	-	340	学士 (史学)	1.08	S36年度		
	日本語日本文学科	4	110	-	440	学士 (日本語日本文学)	1.08	S32年度		
	英語英米文化学科	4	115	-	460	学士 (英語英米文化学)	1.08	S32年度		
	ドイツ語圏文化学科	4	50	-	200	学士 (ドイツ語圏文化学)	1.10	S32年度		
	フランス語圏文化学科	4	80	-	320	学士 (フランス語圏文化学)	1.12	S32年度		
	心理学科	4	90	-	360	学士 (心理学)	1.11	S50年度		
教育学科	4	50	-	100	学士 (教育学)	1.02	H25年度			
理学部	物理学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.12	S24年度		
	化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.09	S24年度		
	数学科	4	60	-	240	学士 (理学)	1.05	S38年度		
	生命科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.25	H21年度		
既設大学等の状況										

既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	国際文化交流研究科 国際文化交流専攻 修士課程	2	10	-	20	修士(国際文化交流)	0.77	H16年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	国際文化交流学部						1.14		
	日本文化学科	4	140	5(3年次)	570	学士(日本文化)	1.14	H10年度	東京都新宿区戸山三丁目20番1号
	国際コミュニケーション学科	4	170	5(3年次)	690	学士(国際コミュニケーション)	1.15	H10年度	
英語コミュニケーション学科	4	45	-	180	学士(英語コミュニケーション)	1.09	H18年度		
附属施設の概要	<p>名称：人文科学研究所 目的：人文科学に関する共同研究を行うことにより学術の進歩発展に寄与する 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積98㎡(事務室・研究室)</p> <p>名称：外国語教育研究センター 目的：外国語に関する教育・研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成9年4月 規模等：使用面積400㎡(事務室・研究室・自習室)</p> <p>名称：計算機センター 目的：電子計算機及び電子通信機器による各種情報処理に関する教育及び研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成10年4月 規模等：使用面積536㎡(事務室・研究室・実習室)</p> <p>名称：スポーツ・健康科学センター 目的：スポーツ科学及び健康科学の教育並びに体育・スポーツ活動及び健康教育に関する専門的業務を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積262㎡(事務室・研究室)</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(人文科学研究科 臨床心理学専攻 博士後期課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
必 修 科 目	臨床心理学演習1	1・2・3通	2				○		5					※1
	臨床心理学演習5	1通	4				○		5					※2
	小計(2科目)	—	6	0	0	—			5	0	0	0	0	—
選 択 必 修 科 目	臨床心理学演習2	1・2・3前・後		2			○							兼1 ※1・3
	臨床心理学演習3	1・2・3前・後		2			○							兼1 ※1・3
	臨床心理学演習4	1・2・3前・後		2			○							兼1 ※1・3
	臨床心理学演習5	2・3通		4			○		5					※2
	臨床心理学特別研究1	1・2・3前・後		2		○								兼1 ※1・3
	臨床心理学特別研究2	1・2・3前・後		2		○								兼1 ※1
	臨床心理学特別研究3	1・2・3前・後		2		○								兼1 ※1・3
	臨床心理学特別研究4	1・2・3前・後		2		○								兼1 ※1・3
小計(8科目)	—	0	18	0	—			5	0	0	0	0	兼7 —	
合計(10科目)		—	6	18	0	—			5	0	0	0	0	兼7 —
学位又は称号	博士(臨床心理学)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件は、演習12単位以上、合計20単位以上の単位取得するほか、博士論文を提出して合格しなければならない。						1 学年の学期区分				2 学期				
						1 学期の授業期間				1 5 週				
						1 時限の授業時間				9 0 分				
備考														
※1：学則別表1においては将来における柔軟な運用を考慮し、上記必修科目及び選択必修科目の単位数を「2または4」としている。														
※2：臨床心理学演習5については、1年次のみ必修、2・3年次は選択としている。														
※3：隔年にて開講する場合がある。														

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更の基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成する。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合若しくは大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
（人文科学研究科 心理学専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	心理学特別研究1	1・2・3通		※		○									兼1 兼1 兼1
	心理学特別研究2	1・2・3通		4		○			1						
	心理学特別研究3	1・2・3通		4		○									
	心理学特別研究4	1・2・3通		※		○									
	心理学特別研究5	1・2・3通		4		○			1						
	心理学特別研究6	1・2・3通		※		○									
	心理学特別研究7	1・2・3通		※		○									
	心理学特別研究8	1・2・3通		4		○									
	心理学演習1	1・2・3通		4			○		1						
	心理学演習2	1・2・3通		4			○								
	心理学演習3	1・2・3通		4			○		1						
	心理学演習4	1・2・3通		4			○		1						
	小計（12科目）		—		32		—			5	0	0	0	0	
合計（12科目）		—		32		—			5	0	0	0	0	兼3	—
学位又は称号		博士（心理学）			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了要件は、演習12単位以上、合計20単位以上の単位取得するほか、博士論文を提出して合格しなければならない。						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			9 0 分						
備考 学則別表1においては将来における柔軟な運用を考慮し、上記選択必修科目の単位数を「2または4」としている。上記は平成26年度授業計画に基づくものであり、※の科目については平成26年度は開設休講の扱いとなっている。															

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合に、学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更の基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成す
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おう場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文科学研究科臨床心理学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 演習	臨床心理学演習1	受講生が学内心理相談室および、勤務している相談機関で担当したインテーク面接、臨床心理面接、心理査定的事例について、教員と参加者でディスカッションし、検討する。 その際の要点は、「クライエントの病態水準」「発達段階のどこでつまづいているか」「生育歴や家族関係からクライエントの問題をどのようにみてるか」「クライエントの病的側面ばかりでなく潜在的な能力をどのように見つけ引き出していくか」である。合わせて、事例を学会などで発表したり、論文にまとめたりする際のポイントについても助言する。 1. 伊藤良子 主にクライエントの問題の内的問題の本質を深く掘り下げる観点から指導を行う。 2. 滝川一廣 主にクライエントの問題の精神医学的見地、および見立ての観点から指導を行う。 3. 伊藤研一 主にクライエントの問題がクライエント・治療者間にもどのようにあらわれているかについて指導を行う。 4. 川崎克哲 主にクライエントの問題に関する「イメージ」「言語」などの象徴的表現の観点から指導を行う。 5. 吉川眞理 主に心理療法過程について、適用すべき技法という観点から指導を行う。	必修
必修 演習	臨床心理学演習5	臨床心理学領域のテーマに関して研究の実践、指導を行い、査読付きの雑誌論文、それ以外の雑誌論文の執筆指導を行い、博士論文執筆を目指す。 1. 伊藤良子 子どもから老年に至る心理臨床実践を基盤として、言葉、主体の生成、象徴化などに焦点を当てる研究を取り上げ、心理療法過程の本質を明らかにするような課題の研究指導を行う。 2. 滝川一廣 発達障害や被虐待児のケアについて、個々の子どもたちの体験世界を内的に理解していく方向と、それらの問題をもたらし社会的、時代的背景を鳥瞰的に捉えるようなテーマを取り上げ、研究指導を行う。 3. 伊藤研一 支持的心理療法とフォーカシング指向心理療法がカバーする領域のテーマを取り上げ、それらに関わる研究の指導を行う。 4. 川崎克哲 心理療法実践の中から心理療法の「構造」、クライエント治療者の「関係性」、その中でやりとりされ、浮かび上がってくる「イメージ」「言語」を主要なテーマとして取り上げ、研究指導を行う。 5. 吉川眞理 心理査定を中心として、心理臨床の実践と関連させたテーマを取り上げ、研究指導を行う。	1年次必修 2・3年次選択必修
選択 必修 演習	臨床心理学演習2	精神分析療法の理論、技法、事例について説明し、討論を行う。対象関係論や自我心理学など精神分析の各学派の理論や技法について触れながら、実際の臨床事例においてそれらがどのように適用されるのかについて説明し、ディスカッションを行う。特に、さまざまな精神病理が精神分析理論によってはどのように理解されるのか、また精神分析的な心理療法において重視される、「転移」「逆転移」、「抵抗」「解釈」について、心理療法過程においてどのように扱っていくのか、について検討を行い、精神分析についての理解を深める。	隔年
選択 必修 演習	臨床心理学演習3	来談者中心療法の理論、技法、事例について説明し、ディスカッションを行う。来談者中心療法において重視される、治療者の「無条件の尊重」「共感的理解」「自己一致」という条件が実際の事例の中でどのように実現されるか、およびそのための技法について検討していく。また来談者中心療法がより広く支持的心理療法のなかに組み込まれる場合に、どのような配慮や工夫が行なわれるかについて考える。さらに、近縁の心理療法であるフォーカシング指向心理療法との関係について、その異同を考察する。	隔年
選択 必修 演習	臨床心理学演習4	ユングの分析心理学心理療法をフロイトの精神分析、フロイト以後の精神分析と対比させながら理論、技法、事例について説明し、ディスカッションを行う。心理療法の中で、①クライエントに内的に展開するもの、②他者としてのセラピストの役割、③クライエント・セラピスト間に生起するものという三つの側面について、その力動のメカニズムについて、事例をもとにディスカッションする。またユングのオリジナルな概念である集合的無意識について、治療過程の中でそれがどのような働きをするかについてクライエントの夢分析、箱庭療法、描画療法を通して考察する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（人文科学研究科臨床心理学専攻博士後期課程）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択 必修	特別 研究	臨床心理学特別研究1	行動療法の理論、技法について事例をもとに討論を行い、理解を深める。行動療法の基盤である学習心理学の条件付けがどのように実際に適用されているかについてディスカッションする。また行動療法は治療に適用されて初めて、具体化される方法であるが、さまざまな症状や問題行動を「刺激-反応」のセットとして捉えるアセスメント方法について検討する。さらに、他の心理療法と比べて強迫性障害や発達障害に対して特に有効な技法であるので、それらの障害への適用の仕方についても理解を深めていく。	隔年
選択 必修	特別 研究	臨床心理学特別研究2	心理査定について、事例を素材にして所見作成について討論を行い理解を深める。ロールシャッハテストや知能検査法、質問紙法などでテスト・バッテリーを組み、どのようにクライエントのアセスメントを行うかについて理解を深める。特にロールシャッハテストでは、単にスコアリングや量的分析だけではなく、継起分析を行い、クライエントの内的世界が追体験できるようにアセスメントできることを目指す。また知能検査法でも知的な能力の査定だけでなく、日常生活でのクライエントの生活能力が全体として把握できるようにみていく。	
選択 必修	特別 研究	臨床心理学特別研究3	臨床現場における個人を対象とする心理療法的アプローチについて事例をもとに討論を行い、理解を深める。人間存在のさまざまなあり方について、心理化、身体化、行動化、象徴化の四つの観点から考える。この観点をふまえて、技法と理論について学ぶことによって、心理療法の初回面接における見立てを深めるとともに、クライエントのあり方に関する適切な技法とは何かについて考えたい。具体的な技法としては、箱庭療法、夢分析、描画療法、認知行動療法などを取り上げる。	隔年
選択 必修	特別 研究	臨床心理学特別研究4	臨床心理学を基礎とする地域や集団に働きかけるアプローチについて、事例をもとに討論を行い理解を深める。福祉領域では虐待問題が注目され、児童福祉施設に入所している子どもたちの心理的支援が重要な課題となっている。まだ確立された方法論はなく、端緒に就いたばかりの支援について事例をもとに検討する。教育領域においてはスクールカウンセリングを取り上げ、コミュニティ援助としてスクールカウンセラーがどのようなアプローチをとるのかについて理解を深める。	隔年
（注）				
1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。				
2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。				